

資料 4

先天異常発生原因に関する長期観察

伊藤 玲子*・佐々木芳枝*

保健所（花輪、鷹巣、角館、能代、男鹿、
五城目、秋田、大曲、横手、本荘）

I 目 的

秋田県では、昭和41年以来「不幸な子どもをうまない運動」を重点施策としているがハイリスク児や、心身障害児の発生要因の予知や予防に役立てることを目的としている。

II 調査方法

別紙調査票の新生児の状況において

- 1) 体重2,500g以下
- 2) 在胎37週未満
- 3) アプガースコア6以下
- 4) 仮死
- 5) 奇型
- 6) 呼吸異常
- 7) チアノーゼ
- 8) 嘔吐
- 9) 黄疸
- 10) けいれん
- 11) 発熱
- 12) その他特に異常状態で生まれたもの。

以上12項目において、何等かの治療を要した場合、その妊娠歴、出産時状態、検査結果、治療状況を詳細に記録し、対象となった子どもは、新生児期、乳児、幼児、就学前まで follow up することとする。

III 調査対象

昭和47年4月より、秋田大学医学部附属病院産婦人科において出産し、その時点で、上記事項に該当する児とした。49年1月現在まで121名である。

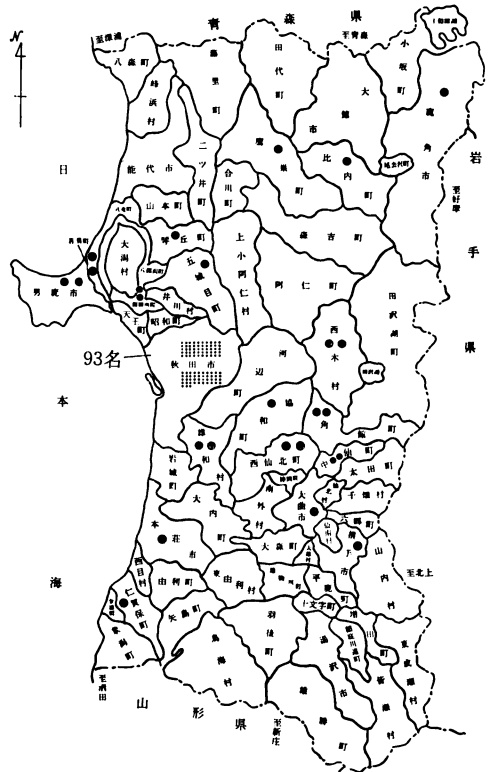
IV 成 績

対象児121名について、昭和49年2月保健婦の家庭訪問を行ない、退院後および現在の健康状態を母親や家族の面接を通し、ききとりによる情報を得た。すなわち、母親の観察、保健婦の健康相談、該当月令アンケートに

より、現在、異常の疑いの有無を追跡した。

121名の中、訪問時点で、県外転居あるいは転居先不明は23名（19.0%）で、対象児の73名（60.3%）は秋田市在住、他は図1の如く各市町村に点在している。

図1 調査対象世帯在住地



調査の行なわれた97名の結果は表1に示す如くで、その中、何らかの異常の疑われる児は17名（17.5%）である。

なお、母親の妊娠中、出産の状態、出生時点の児の異常内容との関係等、詳細は今後の検討とする。

* 秋田県衛生科学研究所

表1 出生時異常のあった児の追跡

対象 (S.47.4~49.1までの出生児97名)
追跡S.49.2未現在

事項	0才		1才		2才		計		
	例数	異常の疑	例数	異常の疑	例数	異常の疑	例数	異常の疑	%
新生児重症黄疸	16	1	9	1	1	0	26	2	7.7
新生児重症黄疸+合併症	10	2	10	3	0	0	20	5	25.0
黄疸	2	0	0	0	0	0	2	0	0
低体重児	0	0	2	0	0	0	2	0	0
低体重児+合併症	6	1	10	2	0	0	16	3	18.8
假死(含・合併症)	3	1	2	0	0	0	5	1	20.0
その他	20	5	6	1	0	0	26	6	23.1
計	57	10	39	7	1	0	97	17	17.5

(保健婦の家庭訪問による)

表2 異常疑の状況

事項	異常の疑	異常状況
新生児重症黄疸	2	1) 発達遅滞? 2) 発育不良・そけいヘルニアOP
新生児重症黄疸+合併症	5	1) 歩行不良 2) 軟口蓋破裂 3) 代謝異常の疑 4) 引きつけ 5) A・B・O不適合, 交換輸血2回, 未熟児
低体重児+合併症	3	1) 股関節要観察 2) ひきつけ 3) 母てんかん, 保育環境不良
假死+合併症	1	喘鳴がひどく受診中
その他	6	1) 右眼球, 右前頭部血管腫, 生後5カ月時, 発熱38°C けいれんあり・8カ月(49.1)迄5~6回の発作あり, 脳波検査予定 2) 軟口蓋破裂 3) 母, 精神分裂病, 児, ひきつけ? 4) 母, パンチ症候群, 児, 発達遅滞 5) 全身湿疹 6) 腕や足がつっぱって硬い, ひきつけ

V まとめ

昭和47年4月から49年1月まで, 秋田大学附属病院産婦人科で出産し, 出産時点で異常があり, 何らかの治療を受けた児121名の, 保健婦訪問による追跡を行なった。その結果

- 1) 県外転居, 転居先不明が19.0%である。
- 2) 調査の行なわれた97名の, 母の観察, 保健婦相談, 該当月令アンケートによる総合判断で, 現在何らかの異常の疑われる児は17名(17.5%)である。